★ ★ 校 長 室 か ら ★ ★　　令和４年　９月１６日号

【本校が考える校内テストの価値】

私たちが中学生だったころを思い出の一つに中間テストや期末テストがあります。また、漢字テスト、英単語テスト、計算テストなども頻繁に行われていました。とにかく嫌なイメージだけが残っています。〇〇先生はワークの中から似た問題が出題されるとか、〇〇先生は授業中の黒板に色字で書いた内容が出されるなどと、テストを作成する先生の傾向を分析し、その予想した内容を一夜漬けで暗記し、テストに臨んでいたことを懐かしく思い出します。

さて今になって思うに、そのように詰め込んだ知識は、いったいどれくらい役に立ったでしょうか。せいぜい高校入試において合格する点数をとることに役に立ったかもしれませんが…。

私たちが受けてきた高校入試と、昨今の高校入試を比較したことがあります。ずいぶんと様変わりしてきています。高校入試だけではありません。前回お知らせした全国学力調査の問題も同様です。まさに考える力、説明する力が備わっていなければ解答できないものです。とても一夜漬けで太刀打ちできるものではありません。ワークや過去問（？）を多くこなせばできるというものでもありません。

なぜこのようにテスト内容に変化が起こっているのか。それはこれからの社会で必要な力を育てることこそ学校教育だからです。よって知識の暗記量が高得点となるようなテストでは、意味を持たないからです。

本校でも、テスト問題について検討をしています。授業をしっかりと受けていなければ点数が取れないような問題の割合を、少しずつ多くしています。これこそ授業で身についた力を測るものです。ドリルだけやっていても解けないような問題を目指しております。だからこそ日頃の授業への取組が大事になっていくのです。ぼーっとノートをとるだけではいけないのです。

現在、教育界では校内テストを廃止するとかしないとかの議論があります。私も以前は、校内テストを廃止する考えが強かったのですが、学習指導要領が変わり、観点別評価が大事にされている今こそ、授業の在り方が重要になってきますし、その授業でどれだけ力が付いたかを確かめるための教師作成の校内テストは、本校にとって意味のあることだと考えています。